

雪国ならではの行事 三島中スキー教室



二月二日(火)に校内スキー教室を行いました。このように日帰りで充実した行事を行えるのは、正に雪国ならではのことです。自分が、この恵まれた環境にあることを理解するのは、もう少し先のころを離れた時なのかも知れません。当日は、三島町スキークラブより、菅家寿一さん、佐久間宗一さん、板橋泰二郎さんの三名のインストラクターにお世話になり、それぞれの技能に応じてスキーを楽しみました。



今月の1枚



職員室に舞い込んできた、かわいい鬼たち
2月3日(水)一日遅れの節分

三島中学生による 三島町次世代の議会



昨年引き続き、本校生徒に対して、貴重な学習の機会をいただきました。今年、コロナ禍の影響で、一二年生は議場の密を避けるために、学校に残り、リアルタイムでのリモート傍聴という方法をとりました。各教室の大型電子黒板に映し出された議会の様子を、2年生が「来年は自分の番だ」という思いをもって、1年生が「えいっすごい」という驚きで見入っていました。この方法をとれば、各個人が所有するパソコンやスマートフォンでも、リアルタイムで見ることができます。コロナ禍で国が前倒しで進めているGIGAスクール構想は、もう、ここまで来ています。さらに、近隣の町村で取り組んでいる、住民の取

りもが繋ぐことのできるフリーWiFi、この環境があれば、いろいろな可能性が加速するからと考えます。これからは、子どもたちの発想は、この環境が前提となり、スマート農業、オンライン医療等も想定されます。今回も、子どもたちがから町に対して、4つの質問、提言を出させていただきました。詳しくは、「広報みしま」や「議会だより」、「みしまテレビ」に掲載、放映されています。子どもたちは、三島町の未来という長いスパンではなく、もっと短い、明日というスパンで、今後について考え始めて行きます。昨年、初回は、子どもたちが知りたいと思ったことがよく見えたように思います。町の明日のために自分が思い描く構想をも

ち、まず、町の現状はどうなっているのか、町を動かしている人々は今何に取り組んでいるのかを質問してみよう。すると、その回答には、自分が思い描いている町の姿には至らない理由が見えてきます。そこを、追質問としてさらに詳しく聞いてみよう。このような動きが子どもたちの頭の中にあつたように思います。こうしたことで、聞く方も答える方も、町の本当の課題が何なのか、少しづつ見えてきます。これがいわゆるアクティブラーニングです。このような、実社会との関わりの中で得た学びは、とても実りの多いものであると考えます。さらに言えば、次世代の議会という一つの提言の場で終わるのではなく、実際に提言の一つを実現させるべく、町当局との協働による活動、町当局とくみ、例えばそれが実現できなくても、自分に足りない知識・技能を身につけ、また町に戻って続けるものとする子どもが現れるものと考えます。これからも、地域と共にある学校として、地域の皆様にお世話になり、支えていただきながらも、中学生として町に貢献できる活動に取り組んでいきたいと考えております。

三島町の明日のために

[教育目標]
心豊かな生徒
自ら学ぶ生徒
たくましい生徒

桐の里だより

令和3年2月号
三島町立三島中学校
校長 関根宏房
ホームページURL
<https://mishima.fcs.ed.jp/>三島中学校



三島中学校 ホームページで、学校だよりを掲載しております。ご覧いただきありがとうございます。